

(案)

新潟市総合計画について

答 申

令和4年 月 日

新潟市総合計画審議会

答 申

令和 4 年 月 日
新潟市総合計画審議会

大合併により「都市と田園が調和する都市」として、大きな強みを得た新潟市は、平成19年4月に政令指定都市として新たなスタートを切り、今年で15年を迎えました。これまで築いてきた安心安全を土台に、未来に向かって着実に歩みを進めてきたと認識しています。

一方、全国的な人口減少、近年各地で激甚化・頻発化する自然災害、変化する国際情勢、新型コロナウイルス感染症による社会変化、デジタル化の急速な進展など、新潟市を取り巻く社会環境は、大きく変化しています。

大きく動き続ける時代潮流の中で、この素晴らしい新潟市を未来に向かってさらに進化させ、よりよい形で次の世代に引き継いでいくことが私たちに課せられた重要な役割です。次期総合計画は、明るい未来を実現するため、将来起こり得る変化や課題を見据え、現時点から取り組むべきことを私たちにさし示す道標とならなくてはなりません。

本審議会は、令和4年6月28日、総合計画素案の諮問を受け、4つの部会を設置し、市民や多様な主体が中心となったパートナーシップのまちづくり、新潟への誇りと愛着の醸成、新潟市を取り巻く状況や活かすべき強み、データや新たな技術の活用といった視点を踏まえながら、専門的な見地や、地域・市民などまちづくりの主体としての立場に立って審議を重ねてきました。

審議にあたっては、新潟市が目指す都市の姿や、その実現に向けたまちづくりの方向性をわかりやすく市民や多様な主体と共有し、互いに連携・協働しながら取り組んでいくことのできる計画となっているかという観点から検証を行いました。

その上で、市民一人一人が明るい夢や希望を持つことのできる、活力あふれるまちを築くとともに、豊かな状態でこのまちを引き継いでいけ

るよう、これからの新潟市が進むべき方向性について、活発に議論を重ねてきました。

審議の結果、総合計画素案は、新潟市の次期総合計画としてふさわしい内容であると評価します。

なお、計画の実施にあたっては、基本構想で掲げた「みんなで新潟市の強みを活かし、人口減少時代に躍進する、『活力あふれるまちづくり』、『持続可能なまちづくり』を進めます」の理念のもと、「田園の恵みを感じながら、心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」の都市像実現に向け、あらゆる分野の政策を相互につなぎ合わせながら、市民や民間事業者など多様な主体と連携・協働し、オール新潟体制で進めていくよう要請します。

また、持続可能な行財政運営の確立を進めるとともに、新たに設定する成果指標を用いて客観的な評価検証を行い、政策効果の最大化と計画の適正かつ的確な進捗管理に努め、成果を市民と共有していくよう要請します。

このほか、特に留意すべき点としてまとめた別紙の意見・要望をふまえ、新年度からの円滑なスタートを目指し、計画策定を進めていくよう、要請します。

「新潟市総合計画審議会」素案への意見・要望

I 基本構想

2 まちづくりの理念

- ・「新潟市の現状・時代の潮流」の部分における、新潟市の現状の記載について、課題を明確にする上にも、強みだけでなくネガティブな現状も記載してはどうか。
- ・「これからのまちづくり」の一部で、一般論と新潟市のまちづくりの話が混在しているため、両者を区別し、論旨が明確になるよう工夫したほうが良いのではないか。
- ・「心の豊かさ」は抽象的なので、市民の理解を促すため国の示すウェル・ビーイングの概念などを参考に説明を工夫してはどうか。
- ・環境の重要性が年々高まる中、単に自然と共存するのではなく、里山・里海・里潟のように市民と自然が共生するとともに、田園とともに自然をベースにしたまちづくりを目指していくといった方向性を打ち出していったほうが、新潟市の独自性が明確になるのではないか。

3 目指す都市像

- ・目指す都市像は、総合計画の核心となる部分であるため、もう少し記載を追加する必要があるのではないか。また、1)ラムサール条約の湿地自治体に認定されたこと、2)「都市と田園の好循環」をテーマにしたSDGs未来都市に選定されたこと、3)新潟都心地区が「都市再生緊急整備地域」に指定されたことについては、目指す都市像の背景で重要であるので明記し、この部分の他、他の箇所でもアピールした方が良いのではないか。
- ・これからのまちづくりは、市民及び多様な主体とのパートナーシップが、中核的な推進力となることをわかりやすく示した方が良いのではないか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな経済」の項目に、近隣地域と連携・交流した地域活性化の視点を加えてはどうか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな社会」の項目について、ワーク・ライフ・バランスの範囲を子育てと仕事のみ限定しない方が良いのではないか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな社会」の項目について、高齢化社会に対応した地域の医療や健康、福祉、介護の充実をもう少し強調した記載としてはどうか。

II 基本計画

1 総論

(1) 人口ビジョン

② 人口の将来展望

- ・市レベルの人口減少が、社会保障に及ぼす影響が大きいことについて示してはどうか。

(2) 将来想定される変化・課題を見据えた政策展開

- ・バックキャストिंगの視点に基づいた施策展開であることをもっと意識したものにしているかどうか。
- ・総務省の自治体戦略2040構想委員会の課題に対応する新潟市の課題を記載しているかどうか。

(3) 土地利用方針

- ・土地利用方針の考え方と基本理念・目指す都市像・重点戦略・区におけるまちづくりの方向性との整合性を図る必要があるのではないかと。
- ・自然環境の活用に関しては、ラムサール条約の精神であるワイズ・ユース（賢明な利用）の考え方を踏まえた記述としてはどうか。

2 新潟市を取り巻く状況

(2) 時代の潮流

⑤ デジタル化の急速な進展

- ・社会課題の解決に向け、マイナンバーカードに連携した地域共通ID創設などのデジタル化によって、新潟市内で行政サービス、地域経済、生活福祉、医療情報の一体化を目指すことを記載できないかと。

⑦ 多様性を認め合い共に生きる社会への意識の高まり

- ・SDGsの原文に基づき、「誰一人取り残さない」ではなく「誰一人取り残されない」と記載してはどうか。

3 新潟市の強み

(1) 新潟市の強み

① 都市と田園の調和によりもたらされる暮らしやすさ

- ・新潟市においても生物多様性の危機が迫っていることを記述してはどうか。

② 国内外と結ばれた高い拠点性

- ・「国内外と結ばれた高い拠点性」は、地理的優位性と現状との間に乖離があることから、その点を踏まえた記載に修正してはどうか。

③ 全国トップクラスの農業力

- ・今後の状況を見据え「生態系の保全」を「生物多様性の保全」に修正してはどうか。

④ 世界に誇る豊かな食

- ・新潟市の食と農の強みを生かした特色を、より多面的に情報発信していく必要があるのではないか。

4 政策・施策の全体像

(1) 政策・施策の全体像

② 成果指標の設定

- ・成果指標の設定に際しSDGsの関連を意識することだが、SDGsの指標に矛盾する部分もあると考えられるので、あまり偏らないほうが良いのではないか。

③ 総合指標

- ・総合指標に市民世帯当たりの平均所得を入れてはどうか。
- ・総合指標の④「将来世代のことも大切に持続可能なまちづくりが進んでいると思う市民の割合」は、「将来世代に引き継ぐ目線で見た新潟市の評価」という趣旨より、「新潟市を将来世代に引き継いでいけると思う市民の割合」としてはどうか。

④ 政策・施策を推進する5つの視点

- ・「活力あるまちづくり」「持続可能なまちづくり」の実現に向けて、「経済」「社会」「環境」の三側面の豊かさを調和し高めるとともに、その三側面の基盤となる「ひと=市民」に視点を当てた重点戦略を「見える化」できると、新潟市としてのオリジナリティがでるのではないか。

5 重点戦略

6 各分野の政策・施策

(2) 各分野の政策・施策

分野2 文化・スポーツ

政策2 文化

- ・施策3「文化財等の保存・継承」①「文化財等の保存・継承」について、ここに教育という目線を入れてはどうか。
- ・施策4「文化芸術の価値の多面的展開」②「文化芸術を社会課題の解決に活用」の、「社会課題の解決」について、具体的かつ前向きなイメージが湧くような表現にしてはどうか。

政策3 スポーツ

- ・施策1「生涯スポーツ社会の実現」②「スポーツを支える環境づくり」について、現在、学校での部活動について、指導者の外部委託や地域移行などの話が出てきており、教育分野や地域などとの関連・連携について記載してはどうか。
- ・施策2「競技力の向上、人材育成の推進」①「選手・指導者の育成」について、今後、地域や生涯スポーツにおける指導者が非常に重要になっていくと考えられるため、その指導者の育成という点について、もう少し加筆してはどうか。
- ・施策3「スポーツを活かしたまちづくり」①「スポーツによる活性化」、②「スポーツの力をまちづくりに活用」について、それぞれ具体的なイメージが湧くような表現にしてはどうか。
- ・施策3②「スポーツの力をまちづくりに活用」について、年齢や居住地などに関わらず市民の誰もが、日常的にスポーツを楽しめるような環境づくりについて、もう少し盛り込んでどうか。

(3) 持続可能な行財政運営

1 行政運営

- ・用語について非常に横文字が多すぎるため、分かりやすくなるような工夫をしてはどうか。
- ・高齢者など、デジタル技術の活用が苦手な人についてのフォローアップについて、記載してはどうか。
- ・SDGsのアイコンとして、5番のジェンダー平等が掲げられているが、新潟市の現状/将来を見据えた課題のところに表現として加えてはどうか。関連していると思われる施策4「市政を支える職員育成と環境整備」①「次代に対応した人材の育成」については、表現を工夫してはどうか。
- ・施策1「市民の視点を大切にしたい信頼される市政の推進」と施策4①「次代に対応した人材の育成」の中に記載のある、「市民視点」と「市民目線」という言葉の使い分けについて、表現を工夫してはどうか。
- ・施策1①「市民目線に立った信頼される市政の推進」について、市民と行政の情報の相互活用という目線を加えてはどうか。
- ・施策1①「市民目線に立った信頼される市政の推進」に記載のある「聞く」という言葉について、「聴く」に変えてはどうか。
- ・施策2「人口減少の進行を踏まえた経営資源の効果的配分と民間活力の導入推進」の中に記載のある、「経営資源」と「行政資源」という言葉の使い分けについて、表現を工夫してはどうか。
- ・施策3「自治体DXの推進」の「自治体DX」について、具体的なイメージが湧くような表現にしてはどうか。
- ・施策3②「DXによるスマートな行政の実現」について、デジタル化するうえでのリスク管理に対し、市民の不安を取り除くために、より積極的な姿勢を打ち出していくような、表現にしてはどうか。

- ・政策指標の「C. 民間活力導入効果」について、現状値ゼロ円とは何を意味しているのか、少し説明を加えてはどうか。

2 財政運営

- ・財政運営の記載内容に関して、市民にわかりやすく、市民一人あたりといった単位あたりのコストを示すなど、表現を工夫してはどうか。
- ・行財政運営について、市民に現状と対応する取組がしっかり伝わるよう、丁寧に示してはどうか。例えば、指標の「A. 将来負担比率」について、より分かりやすくするか、別の指標を検討してはどうか。
- ・施策2「ファシリティマネジメントの視点に基づく財産経営の推進」の表題に記載のある、「ファシリティマネジメント」という言葉について、分かりやすくなるよう、表現を工夫してはどうか。
- ・施策2②「公共施設やインフラ資産の長寿命化」について、未利用地に関する視点を加えてはどうか。

3 多様な主体との連携

- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「パートナーシップの重要性」について、障がいの団体等とも連携していくということが分かるように、表現を工夫してはどうか。
- ・新潟市の現状/将来を見据えた課題の「住民自治の推進」について、民間活力の活用代わりに、地域経営に関する視点を加えてはどうか。
- ・政策指標の「A. SDGsの達成に向けて具体的に取り組んでいる市民の割合」について、SDGsと限定せずに、より包括的に捉えられるような表現になるよう、工夫してはどうか。
- ・政策指標の「B. 地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数」について、市民や企業からの協働提案に関する指標を追加してはどうか。また、全庁的に協働を推進するための体制整備について、記載してはどうか。

7 区におけるまちづくりの方向性

(1) 区におけるまちづくりの方向性

- ・区ビジョン基本方針と新潟市全体の都市構想との関連や、各区どうしの連携、全体イメージの中での区の将来像や区を横断したまちづくりなどについて記載した方が良いのではないか。

(2) 区ビジョン基本方針

東区

- ・「東区独自の魅力を活用し区内外へ発信することにより、だれもが魅力を感じることができる街を目指します。」の記載について、「魅力を感じてもらうことで”東区としてどうなりたいのか”という観点まで記載してはどうか。

中央区

- ・「歩きやすく自転車や公共交通で移動しやすい環境の整備」の記載について、未来を見据えて、次世代モビリティの観点も加えてはどうか。

西蒲区

- ・「広大な越後平野には手入れの行き届いた水田や畑が広がり」という表現について整理が必要ではないか。